

平成30年(2018年)12月11日(火曜日)

社説

<2018.12.11>

三島市長選

県東部の将来像を語れ

任期満了に伴う三島市長選は16日の投票日に向け、3候補が激しい舌戦を繰り広げている。静岡県東部では2020年、東京五輪・パラリンピックの自転車競技が開催される。三島市には新幹線駅があり県東部を代表する玄関口でもある。五輪後のまちづくりまでを見据えた政策論争を期待し、候補者には県東部の将来像を語ってもらいたい。

最大の争点は三島駅南口東街区の再開発事業。1.3秒のエリアにタワーマンションや商業施設などを建設する総事業費220億円のプロジェクトだ。

いずれも無所属で、会社経営の石井真人氏(39)と元県議の宮沢正美氏(69)の新人2氏は再開発事業に関して現計画の見直しを訴えているのに対し、現職の豊岡武士氏(75)は「30年来の懸案」

と事業推進の立場を鮮明にしている。新人2氏は先行きの財政事情への不安や、これまでの事業の進め方に市民の理解が不十分と主張している。

三島市の拠出額は61億円とされる。選挙戦を通じて賛成、見直しともに事業について今後の考え方を有権者に分かりやすく提示して市民の判断を仰ぐべきだ。

指摘の対象となっているマンションの高さを巡る議論を例に挙げると、賛否はもちろん景観への配慮などについて3氏が具体的に示してはどうだろう。それぞれが推し進めようとする施策に対して今後の財政見通しを具体的に市民に提示する必要もある。

三島市には三嶋大社や楽寿園、清流の源兵衛川が中心部にあり、歴史や水の街として知られる。一方で交通アクセスの良さから首都圏への通勤・通学

圏内ともなっている。市内には私立天や国の研究所も立地し、県東部を代表する文教都市でもある。こうした市の現状をどう分析し、次の世代にいかに関を受け継いでいくのか、候補者には大いに語ってほしい。

例えば約11万人の人口規模を維持し、観光客をいかに呼び込む考えか。大手自転車メーカーのサイクルチームが拠点を同市に移した。県が自転車の聖地を目指す中、東京五輪・パラリンピック後を視野に入れて自転車に関連した産業化を目指すような政策の主張があってもいい。函南町や神奈川県小田原市、箱根町などと連携し、ことし5月に県内では初めて日本遺産に認定された「箱根八里」を活用した地域活性化策の継続も不可欠だ。

三島市は、富士市や沼津市と県東部・伊豆地域の活性化をけん引する役割を担っている。県東部を広域的、将来的に見据えた政策について3氏には活発な政策論争を望む。